

FAX 通信

2021年2月1日発行 No.03-84 From KOTANI

ホームページ <http://www.kotanikk.com>

新シール概論 (2) オイルシール (3)

以下に示す条件の場合は、シールメーカと事前の打ち合わせが必要になります。

- 1) ゴミ、砂、泥水などにさらされる場合
- 2) 温度が120℃以上又は-20℃以下の場合
- 3) オイルシールに圧力 (0.03MPa以上又は負圧) が作用する場合
- 4) 軸の振れが0.025mmTIR以上又はハウジング中心のずれと軸のずれ (取付け偏心) が0.1mmTIR以上の場合
- 5) 軸周速が16m/s以上の場合

また密封流体の漏れは、ある程度カタログや各国の規格で規定されている場合がありますが、一律ではありません。

しかしにじみ出し程度は許される場合がありますが、通常では、油漏れを起こしてはならないと決めている場合もあります。この場合の油漏れとは、常識的に油の滴下飛散、にじみ出しなどが無い程度をいうものとして、物理学的に完全に油を遮断することを意味しないことが多いようです。

またJISの規格を見ていきますと第2部ではオイルシールの用語について規定しています。内容は非常にきめ細かくあらゆる内容を網羅しています。

参考になりますので、一度内容を見てください。

第3部では保管、取扱い及び取付けについて規定しています。

参考になる内容では、まず保管場所の場所は、温度30℃以下、平均相対湿度40

～70%と規定されている。また当然であるが、積み重ねは避けることが重要であると説明されています。

面白い事柄では、ゴムを食べる昆虫及びねずみからの保護することが記載されています。その他は、通常ゴム製品に保管として常識的な内容が多い。

保管期限が参考に記載されている点に注目したい。

FKMが10年で、他のゴム (ACM, NBR, HNBR) は7年となっているが、残念ながらVMQが記載され

ていないが、常識的に判断すれば、FKMと同様と思われます。

取付では、シールリップには適切で正常な潤滑油を塗布するように記載されています。またダストシール付きオイルシールには、グリースをシールリップ間に充填することが記載されています。

また取付けでは、取付けジグの使用が規定されています。基本的には、安定した取付けが必要となります。

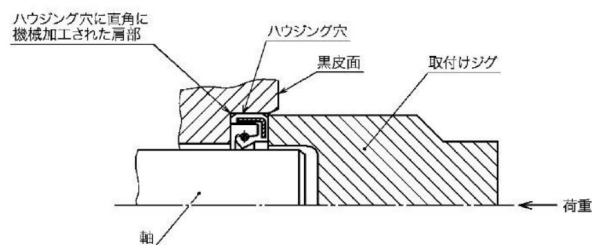


図6 オイルシールの取付け (JIS規格から)

なお、プレスはめあいをする場合も記載されています。これらの点は一般的なシール製品とは異なる状況であることを示唆しています。(続く)

取扱い製品について

NK リング：ふっ素ゴムをふっ素樹脂で被覆した画期的なOリング

コードリング：英国 NES 社の誇るふっ素ゴムつなぎOリング

TESNIT：スロベニア DONIT TESNIT 社製の高品質ジョイントシート

その他の各種シール製品

以上の詳細はホームページに記載していますので、是非ご覧ください。カタログや技術資料は、ご要求がございましたら下記の本社宛にご一報ください。

コタニ株式会社

本社：神戸市中央区浜辺通 2-1-30

TEL:078-251-5300 FAX: 078-251-5307

FAX 通信の記事についてのご意見や質問がございましたら下記の担当者に連絡ください。(担当：根本 kenemoto@suite.plala.or.jp)

送信先の変更、配信の停止を希望される方は、ご面倒ですが FAX078-251-5307 までご連絡ください。その際、必ず通信を受信された FAX 番号をご記入ください。